

もみじ

-広島県山岳・スポーツクライミング連盟会報-



一般社団法人 広島県山岳・スポーツクライミング連盟

〒733-0011 広島市西区横川町2丁目4-17

電話・FAX (082) 296-5597

E-Mail : hgakuren@lime.ocn.ne.jp

URL : <http://hiroshima-gakuren.or.jp>

郵便振替口座 01380-6-37958

題字デザイン 今村みずほ

編集 豊田和司

本号内容

1. 新年互礼登山 (01/04 宮島弥山)
2. 広島県スポーツ協会表彰式 (12/06)
3. 国民スポーツ大会 (10/03-05)
4. クライミングスクール① (10/26 三倉岳)
5. 岩稜歩きスクール (11/23 陀峯山)
6. クライミングスクール② (11/30 三倉岳)
7. 県民ハイキング (11/23 安芸の小富士)
8. 広島県山岳・スポーツクライミング連盟ジュニア強化競技会 ピュアグリーンカップ 2025 (11/29 ピュアグリーン)
9. 岳連短信 (寄贈御礼、1-2月の予定)

1. 新年互礼登山報告

理事長 豊田 和司

令和8年の新年互礼登山を行いました。山田会長以下17名で、厳島神社で安全祈願をしたあと、各会に分かれて弥山に登る予定でしたが、祈願の参加者が少なくほぼ全員で弥山登山を行いました。神社の入り口では、長い待ち時間を恐れていますが、前日の雪のせいか参拝客は意外に少なく待ち時間ゼロ。大潮だったため、これまで見たことのないほど潮位の厳島神社を体験できました。山頂付近では、多くの会と新年のご挨拶を交わすことができました。

安全祈願には少し時間がかかりますので、来年からは、各会の代表者だけでも祈願に参列されてはいかがでしょうか？毎年、傘下団体全部の名前を読み上げていただき、祈願をしております。



【参加者】山田雅昭（広島山岳会）菊間秀樹、村井仁、松井秀樹、浅枝諭史、安藤宏之、稻葉耕三、川岸紗季、増田琢二、山崎真紀、渡邊晋次（以上広島県庁山の会）沖田泰史（個人会員）とその家族、新山まゆみ（広島修道大学山岳会）、荻田純代（個人会員）豊田和司（自然と文学愛好会広島）

2. 広島県スポーツ協会表彰式報告

理事長 豊田 和司

12月6日、リーガロイヤルホテル広島にて、令和7年度の広島県スポーツ協会の表彰式が行われ、山田会長の旭日双光章の紹介がありました。長年にわたるスポーツ振興功労が認められたことが、この度の受章につながりました。

また、インターハイ広島大会で優勝した広島学院登山部も表彰されました。



(写真提供 京才昭)

- 1 競技会名：第79回国民スポーツ大会スポーツクライミング競技
- 2 会期：10月3日（金）・4日（土）・5日（日）
- 3 会場：滋賀県竜王町総合運動公園内特設会場
- 4 概要報告（副会長 村井）

会場に足を踏み入れた瞬間、その施設の規模に圧倒されました。「ドラゴンハット」は真砂土のグラウンド（100m × 67m）を屋根（最大天井高25m）で覆った施設です。屋根の一部からの採光と、照明設備により、明るく広大な空間となっています。1996年竣工で、スポーツやイベントなど多目的に使うことができます。高所作業車などの車両も入ることができます。この中に、仮設のリード壁4ルートとボルダーリード壁4課題が十分な余裕をもって設置されており、壁の前面には十分な広さの観客席、背後には運営用のエリアが設けられていました。気象状況の影響を全く受けない、スポーツクライミングの競技会場としては、理想的な施設です。



【写真】ドラゴンハットの内部

今年の国スポは、中国ブロック5県は「少年女子」がフルエントリーの年です。広島県の他の種別（成男・成女・少男）は、残念ながら8月のブロック大会で予選敗退しています。全国からブロック予選を勝ち抜いた25チームが参加します。（全国9ブロックのうち、今年は近畿、中国ブロックは予選なしのフルエントリー）広島県からの出場は、有村優佳選手（広島国際学院高校2年）と三宅果乃選手（広島市立江波中学校3年）、監督は正田信一さん（Switch climbing gym）です。

3日（金）は、リードの予選です。全選手がA・Bの2ルートを登ります。2ルートは同時に競技が進みます。結果、チーム順位（=2ルート、2選手の、4つの順位を掛け算して算出）は10位で、8位までの決勝進出（=種目入賞）はなりませんでした。ただ、中でも三宅選手はBルートで個人2位と、健闘しました。中国地方は山口13位、島根14位、鳥取20位、岡山24位でした。

副会長 村井 仁



【写真】このルート 2 位の高度に達した三宅選手

4 日（土）は、ボルダーの予選です。チームごとに「第 1 課題・第 2 課題」に挑んだ後、休憩をはさんで「第 3 課題・第 4 課題」に挑みます。広島は 6 番目の出場です。外は雨が降っていますが、今年の会場は天候が全く気になりません。第 1 課題・第 4 課題は、多くの選手が 1 撃 TOP を取る中、有村選手、三宅選手とも 1 撃 TOP を取ります。第 2 課題・第 3 課題で勝負が分かれます。結果、チーム順位（= 4 課題のポイントを足し算で算出）は 13 位でこちらも決勝進出（=種目入賞）はなりませんでした。ただ、中でも三宅選手は第 2 課題を 2 撃目で TOP を取りました。この課題で TOP を取れたのは、1 撃 2 名、2 撃 2 名の 4 名だけです。中国地方は山口が予選 5 位通過後、決勝 7 位、鳥取 15 位、島根 19 位、岡山 25 位でした。



【写真】TOP を取る有村選手

競技会場の外へ出ると、小雨が降っていました。飲食コーナーで暖かい昼食を購入し、休憩用テントで食べようすると、向かいの席に役員ユニフォームを着て問題集に向かっている若者達が居ました。休憩中の、地元登山部の高校生補助員です。2 週間後に試験を控えているそうです。広島県でのインターハイの話をすると、来年は同じ近畿ブロックの兵庫県での開催を控えていることから、盛り上がりのある交流をすることができました。

この大会には、出場選手のご家族、元成男選手とそのご家族、連盟からは山田会長、豊田理事長、私村井が選手の応援に駆け付けました。



【写真】予選が終わって

今年の国スポは終わりました。来年の中国ブロックは「成年女子」がフルエントリーの年です。予選からの本大会出場枠は、成男・少男・少女が、2・2・1 チームです。選手のみなさんには、まずは 4 月の県選手選考会を突破、そしてブロック大会を勝ち抜き、本大会で上位入賞ができるよう頑張ってください。連盟会員のみなさんも、選手たちの応援、よろしくお願ひします。

5 選手・監督感想

後悔の残る結果となってしまいましたが、とても良い経験となりました。今後も頑張ります。（有村優佳）

今回の国スポの経験を活かして次に向けてがんばります。（三宅果乃）



【写真】オブザーバーション前の選手たち

結果はリード10位、ボルダー13位でした。両選手プレッシャーの中よく戦いました。私は監督で帶同してみて広島の現状を把握し、これから目標も立てる事ができました。国スポに関して、広島のレベルを押し上げるには、当たり前ですが小学生からちゃんと見ていき、環境を整え（広島市にも15mのリード壁欲しいです！）チームとして持続的に強い選手を育成、発掘すべきです。年月、労力、そして忍耐が必要ですが精進してまいります。（正田信一）

4. クライミングスクール報告①

指導部 塩田 徹

第7回 10/26(日)

山域：三倉岳 ABC フェイス

人数：14名（スタッフ含）

今回は、旧Aフェイス5.7とDフェイスノーマル5.9をクイックドローを掛けながらの疑似リードクライミングの講習と、練習クラック5.6をナチュラルプロテクションをセットしながらの疑似リードクライミングの講習を行いました。

感想文

三好猛司

2025年10月26日（日）、第7回クライミングスクールに参加しました。今回の講習内容はトップロープをしながら疑似マスタースタイル（クイックドローやカムを掛けながら登る）。ルートは①Dフェースノーマル（5.9）、②練習クラックノーネーム（5.6）、③旧Aフェースノーネーム（5.7）の3本を登りました。

今まで暑くて岩場に着くまで汗だくになっており、むしろ登るよりも汗をかいてアプローチ核心などころがありました。しかし行楽シーズンとなりだいぶ気温が下がったため、アプローチは快適でとても気分が良かったです。

①Dフェースノーマル（5.9）

クライミング経験としてマスタースタイルの経験がありトップロープが掛かっているので恐怖心はありませんでした。初めてのルートなのでどこにホールドがあるのか探りながら登りました。分からぬ箇所はリーチ（身長175cm）と保持力で無理やり突破。リードクライミングなのでもっと楽に登る方法があると思うのですが、考えている時間で体力を削られるので登れそうなホールドを見つけたら思い切って登った方が良いと思っています。疑似スタイルの難しいところはロープをクイックドローに掛ける際にトップロープと干渉しないように掛けないといけないところです。こればかりは全く慣れません。1回掛け

直しましたが、無事に完登しました。

②練習クラックノーネーム（5.6）

カムを1セット渡されました。前回（第6回）にカムの使い方を説明されたようですが、私は諸事情により休んだため使い方が分かりません。ワイヤーを引くと閉じ、離すと開く、カムを入れた後軽く引いて利いているか確認するくらいしか知りません。登る前に①ギアラックの掛け方②カムを番手順に並べること③カムをギアラックから外す際に落とさない方法④下部はカムのピッチを狭めにすることを習いスタートしました。クラックの経験が全くないのでどういうルートで登れば良いかも分かりません。ジャミングはなんとなくできるので登ることは心配ないですが、カムをいつ使いどう登るのかを考えながらやらないといけません。最初のカムは2番を使いました。しかし（2番は使いやすい番手と聞いたことがある。こんな最序盤で使って大丈夫なのか？）と思い、下の方に1番を入れて2番を回収しました。その次のカムで2番を使いました。2つカムをセットした後に問題発生です。

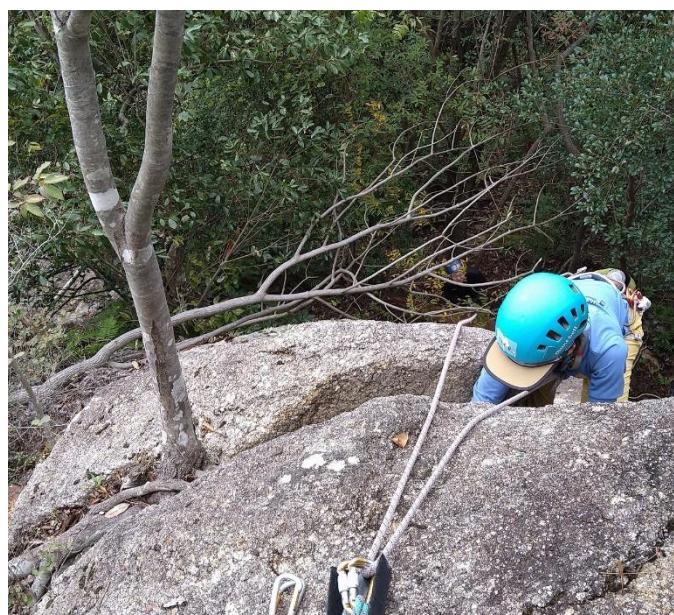
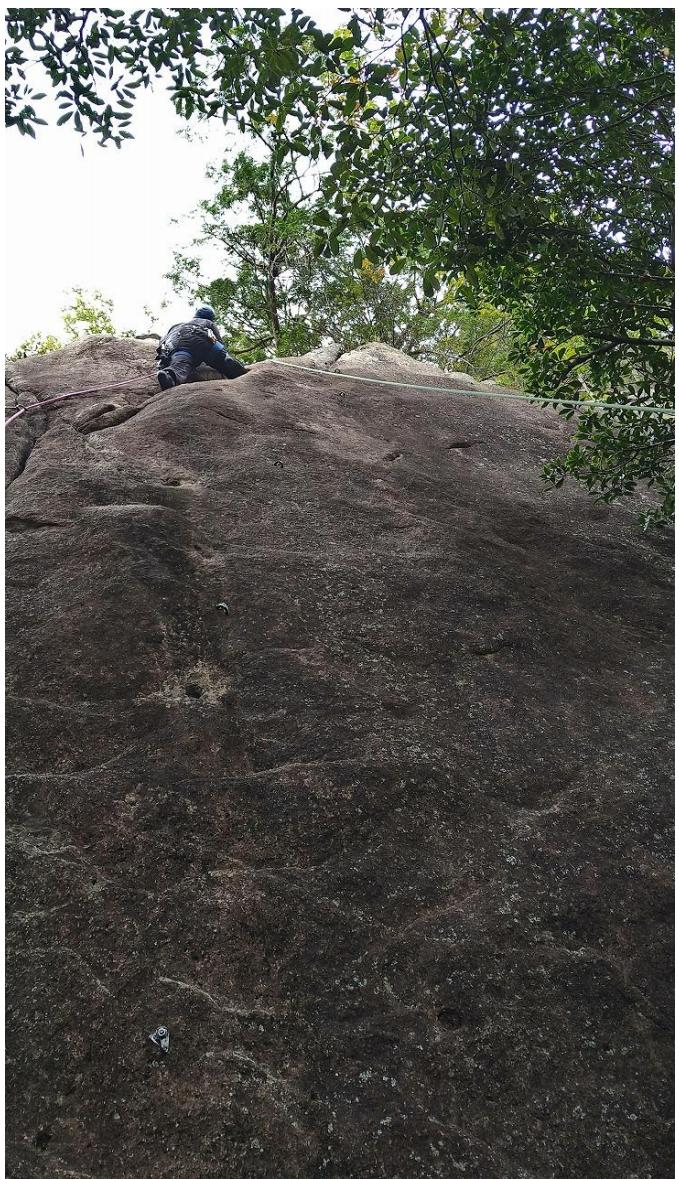
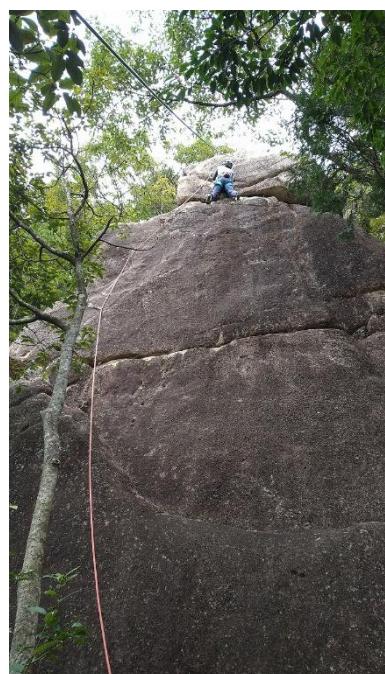
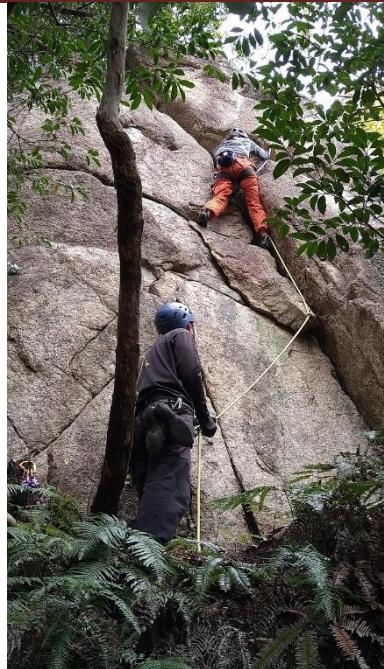
「上に行って右に行くルート」と「右に行って上に行くルート」の2つが見えます。「上に行って右に行くルート」は手だけじゃなく腕や肩も使ってジャミングしなければいけません。とりあえずやろうとしますが手以外のジャミングに慣れておらず不安です。「右に行って上に行くルート」はホールドが明確なので私にとっては大変魅力的です。迷ってる時間で体力を削られるので「右に行って上に行くルート」で突破します。ここでまたもや問題発生です。カムをセットしたいのですが、クラックが左側の奥まったところにあります。どうやら「上に行って右に行くルート」が正しかったようです。クラックが見えないので見ずにカムをセットしようとしたら叱られました。なので頑張って左に体を出して見ながらカムをセットしました。使ったカムは3番です。その後順調に登り4番をセット、最後の乗り上がる場面が不安だったので4番から1m上に5番をセットして完登しました。クラックが上に行くほど広がっていたので番手問題は思っていたよりも問題ありませんでした。この辺の何番を使うかは経験値が大きく出るなと思いました。

他の受講者が登っている時に、カムの4点が岩に設置しているかが大事、身長分登ったらカムを掛ける目安ということを教えてもらいました。

③旧Aフェースノーネーム（5.7）

この日一番登りやすいルートでした。核心部に登れない人のためのお助けスリングが掛けてありました。今までの講習で1ピン目まで登れない方がいてビレイの練習ができないことがありましたが、これががあればビレイの練習ができるのでとても良いシステムだなと思いました。

次回でラストとなりました。ロープワークがまだまだなので、頑張って身に着けたいと思います。



（写真提供 塩田 徹）

5. 岩稜歩きスクール報告①

指導部担当副会長 森本覚

2025年度11月の岩稜歩きスクールをおえて

第8回 11/23(日)

山域：陀峯山

人数：15名（スタッフ含）

今回は、朝から晴天で風もなく山行日和でした。全員がアンザイレンで一列になり行動しました。今まで習得した技術を使って無事登る事が出来ました。

感想 山本 うた子

岩稜歩きスクール最終日は、穏やかな晴天に恵まれた中、絶好のスクール日和となりました。

今回は、一列にアンザイレンで繋ぎながら何度も繰り返し練習してきたセカンドビレイに加え、メインロープで立木へオーバーハンドノット＋カラビナロックのセルフビレイ、PASによるビレイポイント、腰がらみビレイ、ディスタンスブレーキなど一連の動作を講習しました。

「ディスタンスブレーキ」とは、エイト環とクイックドローを使ってロワーダウンさせる方法です。前回の岩渕山で待ち時間を利用してエイト環でのロワーダウンを教わりましたが、握力の弱い私はロープを制御しづらく上手くできませんでした。今回は、このような場面においてクイックドローにロープを1ターンさせて制動力をあげるシステムを教わりました。事前に、ディスタンスブレーキの資料が送られてきて、山で予習したのがよかったです。この日はスムーズにできました。そしてグロスベアリングの地図読みを終えて私の苦手なザレ場下山です。この日のザレ場下山が私には一番堪えました。

岩稜歩きスクールを終えて・・・

4月に初めて顔を合わせた受講生同士も回を重ねるごとに、お互いを知り、励ましあって仲間意識が強くなつたようにも感じました。年齢や住んでる地域は異なりますが「山」という共通のもので繋がつた出会いを大切にしたいと思います。

私自身、クライミング、岩稜歩きと2年続けてスクー

ルを受講させていただき、確実に登山の幅が広がりました。手先が不器用な私もロープに触れることで、ロープワーク技術を少しでも身に付ける事ができました。これからは、自分が今、どのシチュエーションで、何をするべきかを頭に入れて安全に登山を楽しみたいです。

新しいことに挑戦することは、戸惑いや緊張感もありますが、毎月のスクールの日も待ち遠しかったです。スタッフの皆様、スクール生の皆様、お疲れ様でした。そして、感謝を込めてありがとうございました。

感想 池本賢治

岩稜歩きスクールも今回で全8回の最終回となり、11月23日に江田島市の陀峯山バリエーションルートで開催されました。

このルートは海岸線に沿っており、岩稜歩きを楽しみながら瀬戸内海の絶景を眺められる素晴らしいルートです。顧問の岡谷さんが日頃から整備されているとのことで、その丁寧な手入れのおかげで、自然を存分に味わいながら歩くことができました。

当日は快晴で視界も良く、瀬戸内の美しい景色が広がっていました。道中には、ひよこ岩・カイコ岩・ハート岩・ドクロ岩などの個性的な奇岩が点在し、歩いていてとても楽しいルートでした。

今回の講習では、「連続登攀中の確保技術の反復練習」と「ディスタンスブレーキによるロアダウン」を学びました。

確保技術の練習では、特にセルフビレイを重点的に繰り返しました。セルフビレイの忘れは重大事故に直結するため、どんな状況でも素早く確実に行えることが重要です。実際にさまざまな場面で練習し、その必要性を強く実感しました。

ロアダウンについては、10月にエイト環を使った方法を学びましたが、握力の弱い人には扱いが難しい場面がありました。そのため今回は、より制御しやすいディスタンスブレーキを教えていただきました。エイト環とクイックドローを用いる方法で、事前に送っていただいた資料のおかげもあり、当日はスムーズに実践することができました。岩稜歩きスクールでは、事前課題や講習後のフォローをメールでいただけるた

め、予習・復習がしやすく、技術の習得に大変役立ちました。

全 8 回の講習を通して、初心者の私でも安全確保の基本を身につけることができました。しかし、実際の登山で確実に行うためには、今後も継続して練習を重ねる必要があると感じています。安全に登山を楽しむためにも、これからもロープワークの練習を続けていきたいと思います。

最後になりましたが、スタッフの皆さんには毎回丁寧にご指導いただき、心より感謝申し上げます。



（写真提供 久保田 征治）

6. クライミングスクール報告②

指導部 塩田 徹

2025年度11月のクライミングスクールをおえて

第8回 11/30(日)

山域：三倉岳 見晴らし岩スラブ

人数：15名（スタッフ含）

最終回ということで総括の意味を込め ロープワークの復習と、
トップロープで確保した疑似リードによる（主にリードビレイ）
マスタースタイルのクライミングの講習を行いました。

(指導部 塩田 徹)

(感想文 長井 優典、高岡 英美)

感想文

長井優典

今年度最終回となる第8回クライミングスクールに参加しました。11月30日、日陰で動かすにいると、思わず身震いするほどの寒さです。

この日は3人1組となり、リードクライミングのビレイ練習を行いました。役割は、クライマー、リードビレイヤー、見学のローテーションです。この順番決めは、私にとってかなり重要です。最初にクライマーになるのは避けたいところです。オブザベーションが十分にできず、他の方の動きを見て学ぶことができないからです。リードビレイヤーも、クライマーに合わせた対応がうまくできなかったため苦手です。まずは見学をしながら、ビレイヤーの動きを盗み見る必要があります。今回は運よく、見学からスタートできました。

本日登る3本のルートは、今年度2回目の挑戦です。昨年も一昨年も登れなかった記憶がよみがえります。そして今回も、やはり登ることができませんでした。他の方々が軽々と登っていく姿を見て、自分が同じところでつまずいているように感じ、学習能力のなさに絶望を感じます。

リードビレイでは、ビレイ機を使ったロープ操作にもたついてしまいました。ビレイする位置を体ごと岩に近づけたり離したりしてテンションを調整する方法を教わり、手先だけで操作するよりも、少しスマーズにできるようになった気がします。

あるルートを登る際、クラックにカムをセットする場面がありました。バランスが取れていなかったのか、腕や脚が震え始めます。セットする位置も悪く、クラックがよく見えません。手探りで試みますが、なかなか決まりません。講師の先生は冷静に指示を出してくださいましたが、私は落下への恐怖と格闘しながら、汗だくになってカムをセットしました。無事に決まった瞬間の解放感は、ここ数か月で最も爽快なものでした。

スクール終了後、講師の先生から「今後もぜひクライミングを続けて、どこかでお会いできたら」と声をかけていただきました。これからも安全に気をつけながら、細く長く続けていきたいと思います。3年間、本当にありがとうございました。

令和7年11月30日クライミングスクール最終回の感想 高岡 英美

11月30日とうとうクライミングスクールの最終日が来てしまいました。コーチとスクールの仲間の皆さんと学習する最後の日です。八の字結びにも気合が入りました。

リードビレイが苦手だったのでコーチにしっかりチェックしてもらいながら行いました。

「早春賦」は数ヶ月前までは登れなかったのですが、今回は登れました。自分の成長が自信になりました。これからもビレイの精度を上げる努力と登攀技術を磨いて、いつか世界のビッグウォールに挑戦したいです。

初冬の木漏れ日の中、コーチと仲間と気持ちの良いクライミングが出来ました。クライミングに出会えた喜びと幸せを感じながら瞳に涙を一杯に溜めて、私は岩を登る仲間を見つめました。

スクールで一緒に学習してきた生徒の皆様、短い間でしたが大変お世話になりました。またどこかの岩場でお会いできるのを楽しみにしております。

ここからお世話になったコーチに感謝の言葉をお一人ずつ贈らせていただきます。（あいうえお順にて）

カツタコーチへ

いつも的確なご指導ありがとうございました。温かい声掛けもうれしかったです。カツタコーチは私服姿がとても素敵だったので私から勝手ながらベストドレッサー賞 2025 を贈らせて頂きたいと思います。

ゴトウコーチへ

クライミングには四つの敏が必要だと聞いたことがあります。鋭敏、機敏、俊敏、明敏です。その全てをゴトウコーチから見せて頂きました。足りない物ばかりの私には強い憧れです。少しでも近づけるようにこれからも努力します。

シオタコーチへ

クールな雰囲気なのに何の恐れもなくジョークを飛ばして私たちの緊張を解いてくださいました。その反面出来てない所はビシッと指摘して正しくご指導して頂きました。素足になってまで教えて頂いた事もありました。クールでホットなシオタコーチ、ありがとうございました。

ツドコーチへ

いつもやわらかい笑顔でご指導して頂きありがとうございました。難しい場面も魔法をかけばいいんだよと教えて頂きました。立てる、私は立てる…と思うことが大事だと。厳しい岩場で魔法をかけます。素敵なお守りをありがとうございました。

ホウサキコーチへ

初めてお会いした時に私をクライミングスクールに誘って頂きましたね。とても感謝しています。ホウサキコーチは少し毒舌だけど上手に登れたら「ゴリラ！」と言って褒めて下さいました。私はこれからも岩に強い立派なメスゴリラになれるように頑張ります！

モリモトコーチへ

いつも正しい知識、経験で教えて頂きありがとうございました。初めてのクライミングの世界でモリモトコーチの元で教えて頂けたのは本当に幸運でし

た。またお会いした時にモリモトコーチから褒められるようにこれからも精進していきます。

最後に…

私は基礎基本を大事にした正しいクライマーになる事でこのご恩に報いたいと思っています。この度は本当にありがとうございました。



7. 県民ハイキング報告

顧問 岡谷 良信

第73回	実施日	2025年11月23日（日曜）	天気	晴
山名	似島 安芸小富士（278m）	所在地	広島市南区似島	
担当団体・チーム	個人・チームありんこ	責任者	岡谷良信	
一般参加者	高校生以下	加盟団体・チーム	担当団体・チーム	参加人数（計）
8名	0	12名	11名	31名

実施概要

第73回県民ハイキング、広島湾に浮ぶ安芸小富士、平和学習登山。

広島港桟橋前、受付8:30～9:10まで、出港9:30、9:50学園前桟橋（開始式）スタート10:15スタート10:15～11:10安芸小富士（1班）15分遅れで（2・3班）三々五々到着、昼食場所ないので山頂で昼食しながら、歴史解説、2名の方が若干難しい状況と判断してエスケープへの追加班編成（岳連）松井秀樹、（ありんこ）小玉靖視エスコートのお願い対応。

11:50（1班）出発～12:20道路～12:50似島平和記念館着（1班のみ）

地元語りべガイドの宮崎佳都夫氏はすでにお待ち、なかなか忙しいようで、即刻始めたい様子だが後続班の到着が遅れている。

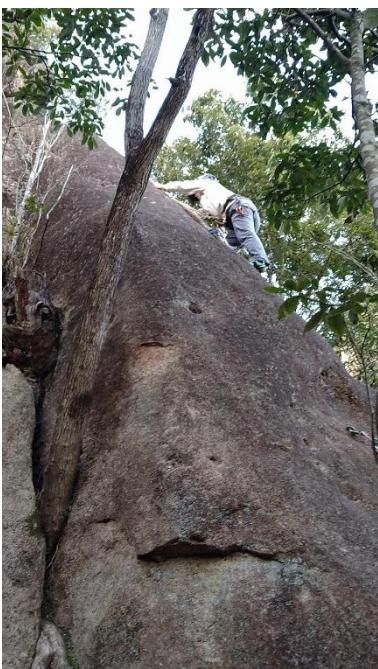
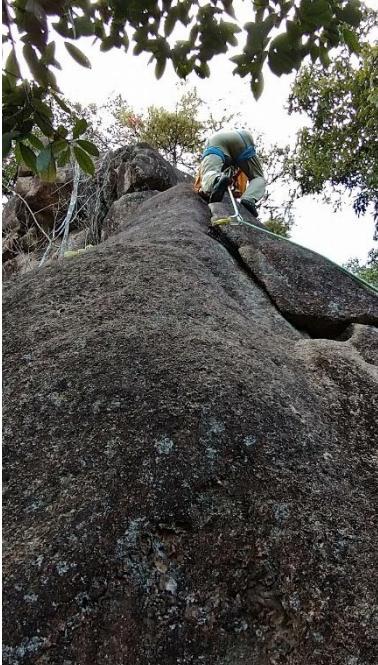
2・3班が10分遅れ、何とか引き伸ばしに成功し、参加者全員集合で宮崎ガイドの似島の戦争歴史解説受け、改めて、現在の平和ボケで現実を感じ、平和の有難さを痛感できた。

気付いた点

- 1) 時間制限があったために参加者の方々に無理をさせた感がある。
- 2) 県民ハイキングと歌いながらも一般参加者、子ども達の参加が少ない。何故？
- 3) 担当団体＆チーム、岳連普及部への負担が大きい。
(一般参加者が少ないので考えてみましょう)

今後の提案

- 1) 県民ハイキングの行動時間の規定を設ける。
- 2) ただのハイキングでなく、目的を作る。（登山のワンポイント講習を1時間程度組込む、地域のPR含めたガイド等）
- 3) 一般参加の拡大、未来を考えての策が必要。



（写真提供 塩田 徹）

問題も有る事は承知だが、一步踏み出さないと何も変わらないし、情熱が無いと達成は難しい。出来ない理由を先に考えてしまう傾向があるが、先ずは一步を踏み出す。地域を巻き込んでの県民ハイキングの検討が必要。

感想 顧問・チームリンコ 岡谷 良信

第73回 県民ハイキング感想文

岳連から令和7年度の県民ハイキングの計画実施担当をと、（個人会員）チームありんこに打診を受けてましたが、まだまだよちよち歩きの『ありんこ』達は大丈夫かと一瞬、戸惑うも、「ま～あ何とかなるか」と開き直り受理の返事をしてしまった。

個人会員の皆さんのお皿をして設立し5年余り、チームの皆さんには少しずつ、まとまるようになつた事で、社会貢献もできる活動が出来るような力もついて来たようだ。

2回の下見と、似島平和ガイド、宮崎氏への依頼、非常事態対応の検討等を、岳連普及部のアドバイスを受けての企画となりました。

11月23日（日曜）勤労感謝の日の連休なので、参加&スタッフの方々が何人になるものかと心配したが、申し込み33名、キャンセル2名で合計31名参加を得た。

朝8時頃からスタッフが広島港（宇品港）に集まって、受付準備してくれる。参加者の2～3名が、遅刻？キャンセル？か、9:30出港、9:50似島学園桟橋着。

今回の県民ハイキングは時間の制限が有るのでせわしない一日になりそうな予感で、早速開始式、山田会長の挨拶を巻きながら、儀式を終えて 10:15スタート。今日は小春日和、登山日和と言か広島湾の展望には最高の天候だ、11:10安芸小富士山頂に一班の方々は余裕で到着、山頂では木々が大きくなり、360° の展望出来無い山頂が残念なところだ。

班長から、途中に昼食場所の適切な所が無いとの提案で、安芸小富士山頂で、30分程度で昼食時間と似島の歴史解説とさせて頂く。

参加の体調確認、これから歩行が難儀かと思わ

れる方のエスケープルート班を編成し、13:00に慰霊の広場で落ち合う事をお願いし、一足早く山頂を出発する。小春日和からか、数組の登山者と出会いながら、砲台塹壕の跡か？を抜け、ミモザ巨木をくぐり抜け、墓所から道路に12:20到着、慰霊の広場まで20分有れば大丈夫だが、後続班が13:00は厳しいか12:50分に到着。

すでに宮崎ガイドさんは慰霊の前でお待ち、忙しそうで直ぐにでも、始めた様子が気になるが、皆が来るまでの引き伸ばしを図る事、20分、10分遅れで、始めていただく。慰霊碑の前で、被爆者の悲惨な状況、遺骨発掘などの状況を聞くと共に、似島に置かれた、ドイツ人の捕虜収容所など悲惨な中で菓子を焼き出来る捕虜が間違に、振る舞つたのが、似島バームクウヘン発祥の地とか、悲しい中にはつと/orする話を伺う事が出来た。

20分余りの語り部、お礼と共に、最終の徒步で、被爆者が下船して来た桟橋の跡を見学しながら、学園前桟橋へ、全員トラブル無く到着、閉会式。

最終に楽しみが残されていました、福永やす子さんの差入、夜な夜なの手作りスイーツが皆さんに疲れた身体にしみこんだようで、喜んで頂きました、行動中しっかり背負って頂き、お疲れのなかでの「おもてなし」ありがとうございました。岳連スタッフ、（個人会員）チームありんこ皆さん、始めてにもかかわらず、的確な対応で、トラブルもなく任務を果たすことが出来ました。

お疲れ様でした。



8. 広島県山岳・スポーツクライミング連盟 ジュニア強化競技会 ピュアグリーンカップ 2025報告

スポーツクライミング担当副会長 佐藤 建

2025年11月29日（土）クライミングジムピュアグリーン様のご協力により開催いたしました。この大会は広島県スポーツ協会のジュニア育成強化費を使わせていただき、中学生以下の選手の競技力向上を願って開催しました。

U11（9歳から10歳）からU17（15歳から16歳）の男女各4カテゴリーと年齢制限のないファン・ミドル・オープンのカテゴリーで行いました。

競技は予選ボルダー競技（コンテスト方式5アテンプト8課題）決勝オンライン2課題で行いました。この試合形式はJMSKA主催のユースボルダー大会と同じ形式で、将来の試合を見据えてこの形式をとりいれました。

午前はU11とU13、ファンクラス 午後はU15・U17・ミドル・オープンクラスの選手たちが課題に取り組みました。課題は茂垣敬太さん中野稔、ピュアグリーンの永井夫妻に作っていただきました。

出場選手は54名で中国5県にとどまることなく九州、四国、関西からも参加していただきました。この大会が随分と認知されてきたと思います。スポーツクライミング（SC）部が直接選手の指導に関わることは難しく、各地域のクライミングジム様のお力を借りなくてはなりません。SC部は競技人口の増加のためにこのような大会を開き、選手たちに大会に参加するチャンスを設けてあげることが大切であると思います。来年も大会を設定していきたいと思います。なお、この大会結果は岳連HPをご覧ください。



9. 岳連短信

1. 寄贈御礼

- (01/21) 三原山の会『筆影』No.551（2月号）
- (01/23) 福山山岳会『会報』2月号
- (12/19) 広島やまびこ会『やまびこ』828（12月号）
- (01/05) 広島山稜会『峠通信』798（12月号）

2. 1月～2月の行事予定（実施済も含む）

- 12/20（日）県民ハイキング 松笠山下見
- 12/24（水）新イベント検討会
- 2026年
- 01/04（日）新年互礼登山（宮島弥山）
- 01/06（木）県民ハイキング調整会議
- 01/10（土）JMSKA新春懇談会（アルカディア市ヶ谷）山田・豊田→参加せず
- 01/18（日）県民ハイキング 松笠山（広島県庁山の会担当）
- 01/28（水）新イベント検討会
- 02/08（土）JMSKA全国理事長会議（豊田）
- 02/12（水）第11回運営会議

編集部より

○この会報は、皆さんの提出原稿を編集して発行しています。岳連行事・山の情報・行事参加の感想など気軽にお寄せください。寄稿の場合は所属、役職を記入下さい。編集の都合で一部手直しがあります。ご了承ください。

○会員団体で会報発行されたら岳連事務局まで恵送

下さい。隨時紹介します。

○この会報はメール配信しています。配信ご希望の方

は岳連事務局までメールアドレスをお知らせ下さ

い。